



2019.2.14

林業成長産業化 地域創出モデル事業

田辺市 農林水産部
森林局 山村林業課



◆森林面積：90,827ha

市域の約88%, 県域の約25%に相当

◆森林面積の内訳

人工林が約62%に相当

◆森林蓄積：33,476千m³

県域の約27%に相当

◆森林材積の内訳

人工林が約83%に相当



主な素材生産者と素材生産量

龍神村森林組合

中辺路町森林組合

県内の素材生産量の約4割
を占める伝統的な林業地域

◆素材生産量
約72,000m³

◆木材共販所販売量
約65,000m³

西牟婁森林組合

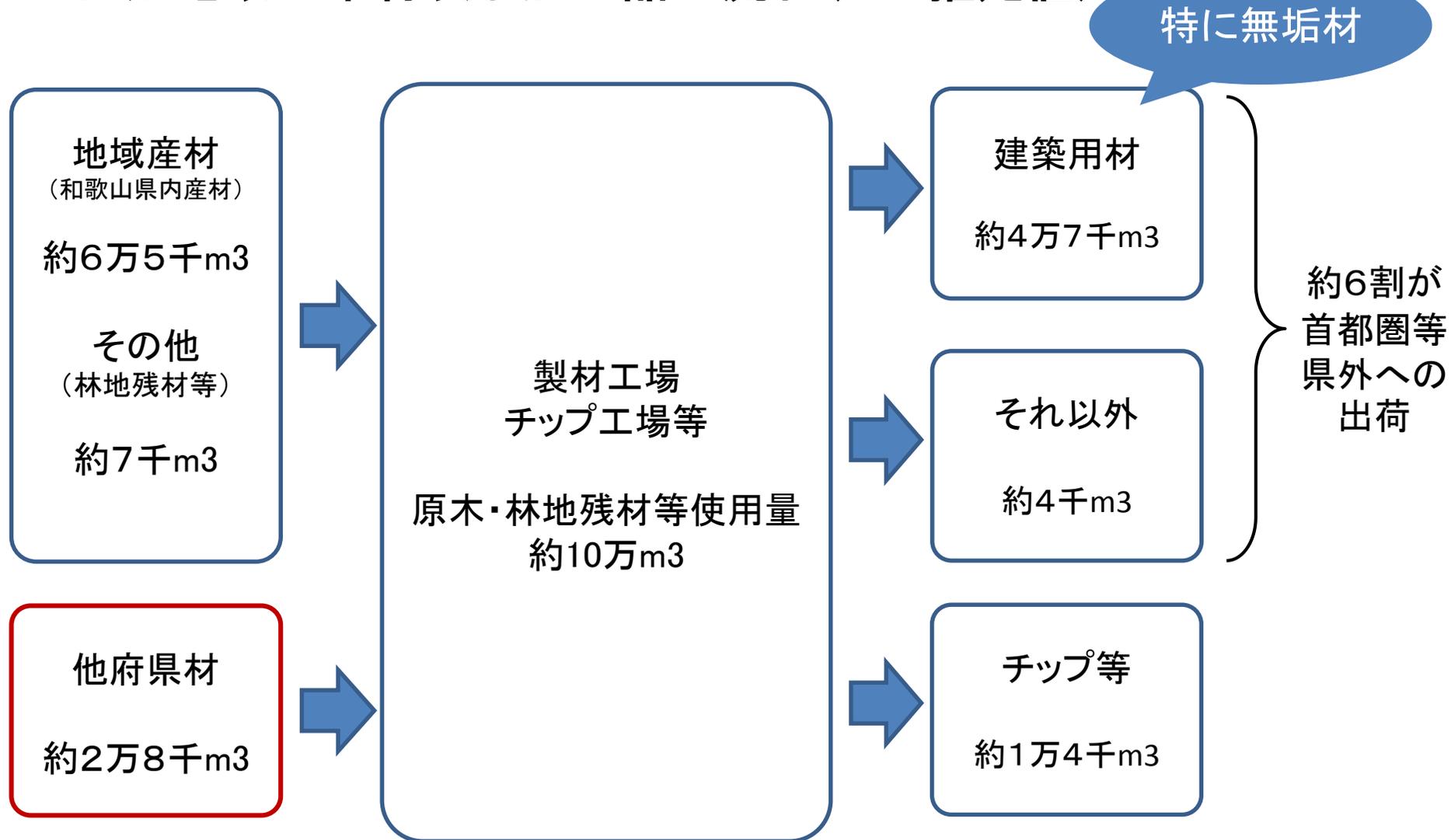
本宮町森林組合

● 森林組合 ● 民間事業体 ★ 木材共販所(市場)

※H27年次県調査資料



田辺地域の木材及び加工品の流れ(H27推定値)





田辺地域の現状と取り組み

	現 状	取 組 み	
① 素材生産	<ul style="list-style-type: none">◆ 価格低迷による素材生産量の低下◆ 急峻な地形による路網整備の遅れ◆ 主伐・再造林、選木技術の必要性◆ 川下側消費者との情報連携不足	<p>1 スマートサプライチェーンの構築と運営 地域性を考慮し、適材を適所へ供給する仕組み構築</p> <p>2 ICT等を用いた情報共有と人材育成の融合 川上～川下まで情報の共有、トレサビリティの確保</p> <p>3 ロググレーダー等の人材育成 原木仕分け技術の向上、皆伐作業員の育成</p>	
	② 木材需要	<ul style="list-style-type: none">◆ 県外からの優良材(A材)流入◆ 2020年バイオマス発電所稼働(予定)◆ 製品出荷の9割が建築用材 (主に無垢材)	<p>4 低コスト林業の推進 高性能林業機械(フルトレーラー導入等)ほか</p> <p>5 ムクファーストの推進 普及啓発・協力依頼、木育の推進</p>
		③ 循環・環境	<ul style="list-style-type: none">◆ 森林所有者の造林意欲の低下 (再造林率は4割程度)◆ 放置森林の増加



目指すべき将来像と目標

2つの世界遺産を有す魅力ある地域の森林資源を効果的に活用し、強い林業を目指す！



川上

人材育成

低コスト林業

循環型林業

スマートサプライチェーン

川下

川中

ハウスメーカー
工務店

木質バイオマス発電

公共建築物

住宅・一般建築物

木製品・紙製品

情報共有システム

木材共販所
中間土場

製材所
プレカット工場

合板工場等

ムクファースト

体質強化支援

ムクファースト

体質強化支援

目標値 2021年度末

【素材生産量】

49千m³ → 70千m³

【情報システムの利用
による取引量】

0m³ → 40千m³

【ログ・グレーダー等人
材の育成人数】

0人 → 8人



林業成長産業化運営協議会



- ◆H29年9月29日設立
- ◆委員構成(H31年2月現在)

西牟婁森林組合	龍神村森林組合
中辺路町森林組合	本宮町森林組合
田辺木材協同組合	株式会社山長商店
山長林業株式会社	和歌山森林管理署
西牟婁振興局林務課	上富田町産業建設課
白浜町農林水産課	すさみ町産業建設課
田辺市森林局	住友林業株式会社 ※委託契約によるコーディネーター

- ◆協議会は定期的に開催(2か月に1回以上)
- ◆各取組みの達成に向けた調査や、地域の問題・課題の抽出と解決に向けた提案や協議、計画の作成や検証・実施を進めている。
- ◆川上～川下関係者のさらなる参画も要請していく。



静岡県浜松市



新潟県森林組合連合会



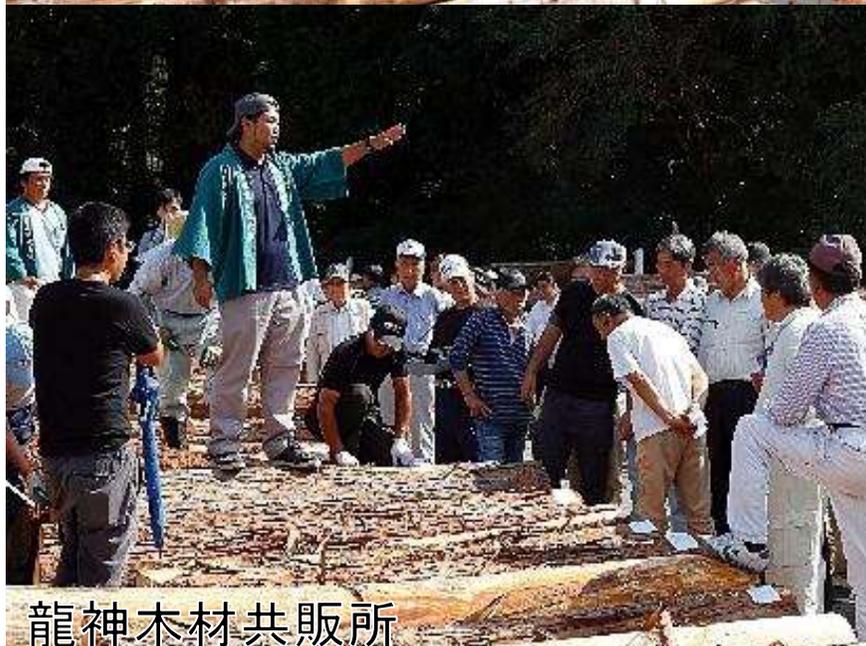
岡山県真庭市



木材産業の体質強化支援



田辺市木材共販所



龍神木材共販所

- ◆紀州材原木祭(合同特別市)
- ◆林業成長産業化運営協議会の中で提案があり、田辺木材共販所と龍神村木材共販所の共催で、初の合同特別市を開催
- ◆「紀州材」の魅力を、県内外の製材工場に向けて再発信し、販売先の拡大と販売単価の向上を目指す
- ◆新規の取引先が15社増加
- ◆販売単価も例年より約2割増加



低コスト林業・循環型林業の推進



◆ 民国連携

取組みのポイント

① 低コスト造林の推進

- ・ 現地検討会の開催等を通じた民有林への普及



② 民国連携による効率的な路網整備

- ・ 「田辺市美しい森林づくり推進協定」の活用
- ・ 「路網の見える化」と「民国連携モデル路網」の整備

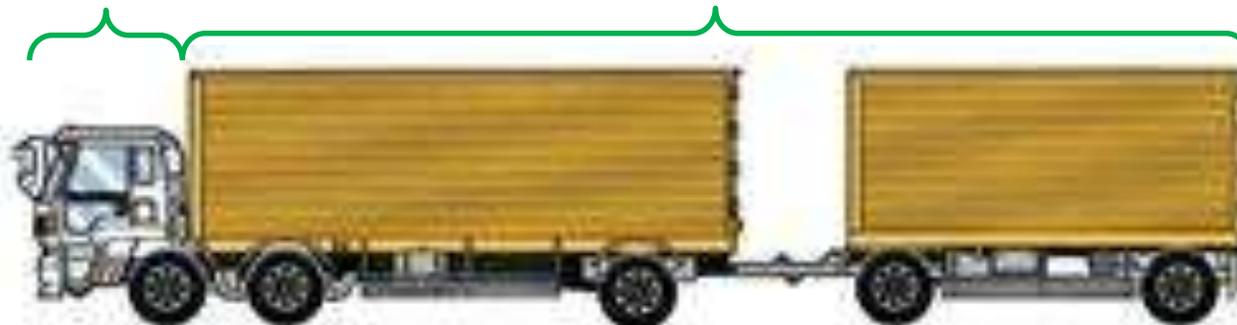


低コスト林業の推進

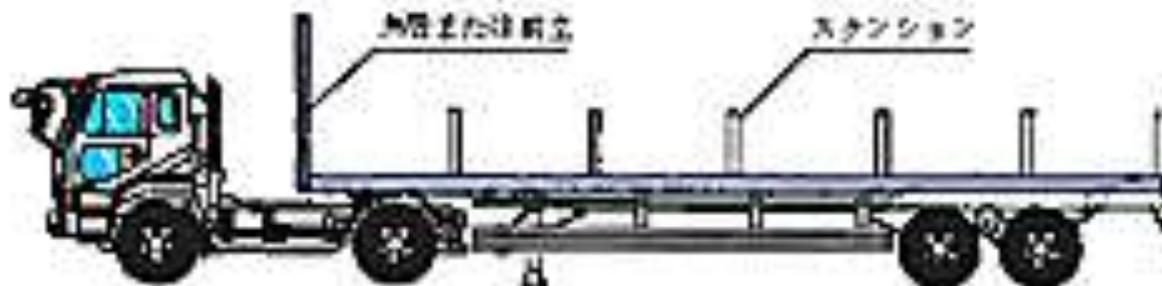
フルトレーラー

トラクタ

トレーラー



セミトレーラー



- フルトレーラーとは、『総重量をトレーラだけで支えるように設計され、先端に牽引具を備えたトレーラ』のこと。
- トレーラー部分(後部)を切り離せるため、トラクターのみでの運行が可能。



低コスト林業の推進



出典：球磨村森林組合



出典：日通商事(株)

＜車両の特徴＞

- 前後のトレーラー部分が切り離し可能な車両構造。
- 内輪差が少ないため、連結した状態でもセミトレーラーより狭小道路の通行が可能。
- 中間土場による積み替えをせず、22t (30m³) 程度のトレーラー運搬が可能。
- 九州での普及が多く、近年全国的に普及が増え注目されている。
- グラップル付きタイプが多い。



低コスト林業の推進



◆H30年6月 フルトレーラー意見交換会
日通商事(株)・大阪ローダー(株)

□田辺地域に限らず、**和歌山県内の路網基盤**は他の地域と比較して、**低規格・低密度**であるという難点がある。

□現状の路網基盤が大幅に改善される期待は薄く、現状での路網基盤を前提とした輸送効率向上を考えなくてはならない。

検討事項：車両規格別の運搬量・通行可能林道

車両規格	運搬量	通行可能な林道
フルトレーラー 10t車ベース	大 30～35m ³	少ない
フルトレーラー 8t車ベース	中 20～30m ³ ？	「多い」 を目標に規格を検討
セミトレーラー 25t以上	大 35～40m ³	極めて少ない
8tトラック	小 11m ³	多い
4tトラック	極小 5.5m ³	かなり多い

一般的な車両規格ではないため、田辺地域や紀伊半島で通用する車両規格を検討する必要がある。

- ◆H31年2月中旬予定
低コスト運送に向けた実証試験（試験走行やコスト比較分析）



◆低コスト林業の推進

・フルトレーラー導入の検討

H31年2月の実証試験結果の分析、本地域の路網にも対応可能な規格の設計開発

8t車ベースが通行可能な路網整備の検討・支援

・民国連携

国有林で実施した低コスト造林の普及に向けて、H31年3月に現地検討会を開催予定

◆ICT等を用いた情報共有システムの構築

未利用材等の産地証明を支援するための情報共有システムの実証試験を予定

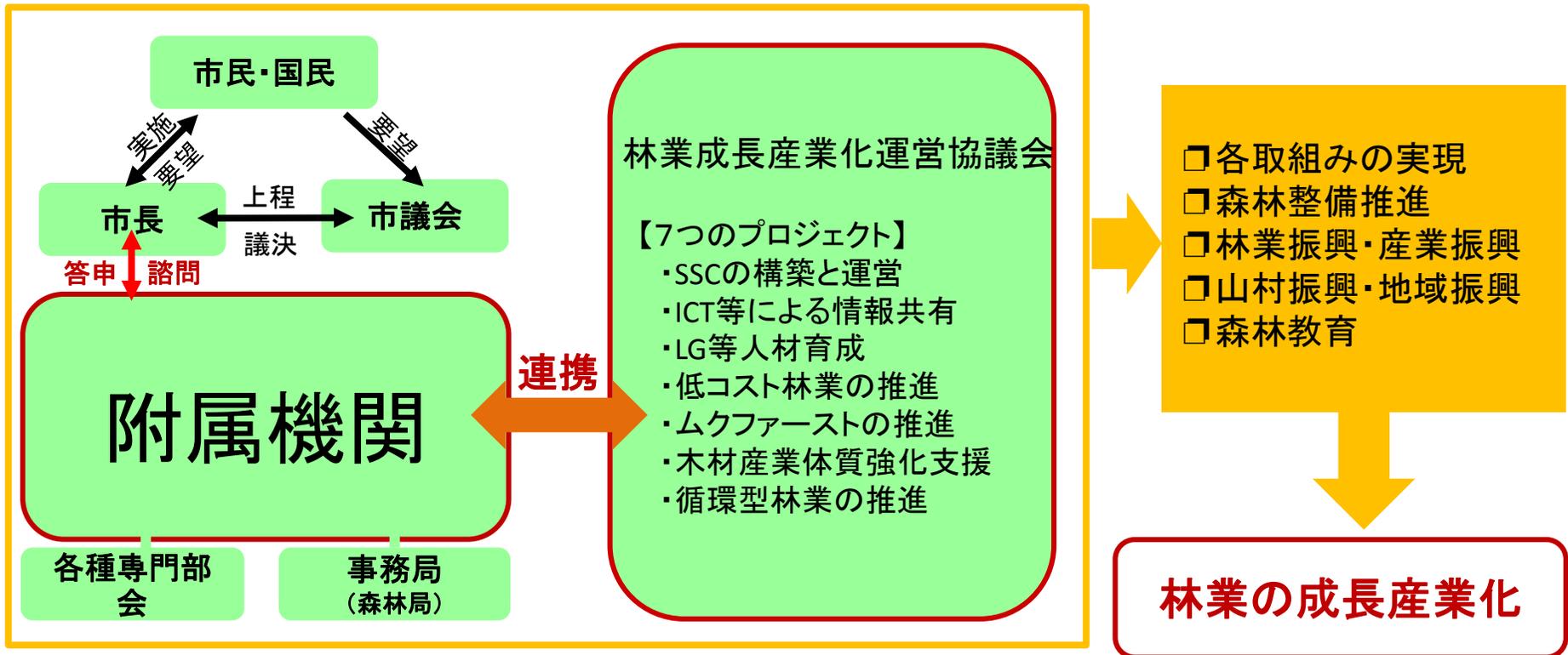


森林環境譲与税との関連

◆田辺市への配分額： 105,707千円(2019～2021)※県試算

◆推進体制： 新たな森林管理システムの推進と、有識者で構成する「附属機関」を設立し、地域に応じた施策の方向性を諮問

◆林業成長産業化運営協議会との連携





2019.2.14

ご清聴ありがとうございました。